

＜津波評価＞

1. 誤りの内容

想定津波の計算における解析モデルの作成^{※1}の過程で、発電所敷地の3箇所で標高データが一部、正しく設定されていない。 (図-1参照)

※1 解析モデルの作成では、海域及び陸域を格子状のメッシュ (今回誤りが確認された領域は10m格子) に区分し、各計算格子に標高データを設定している。

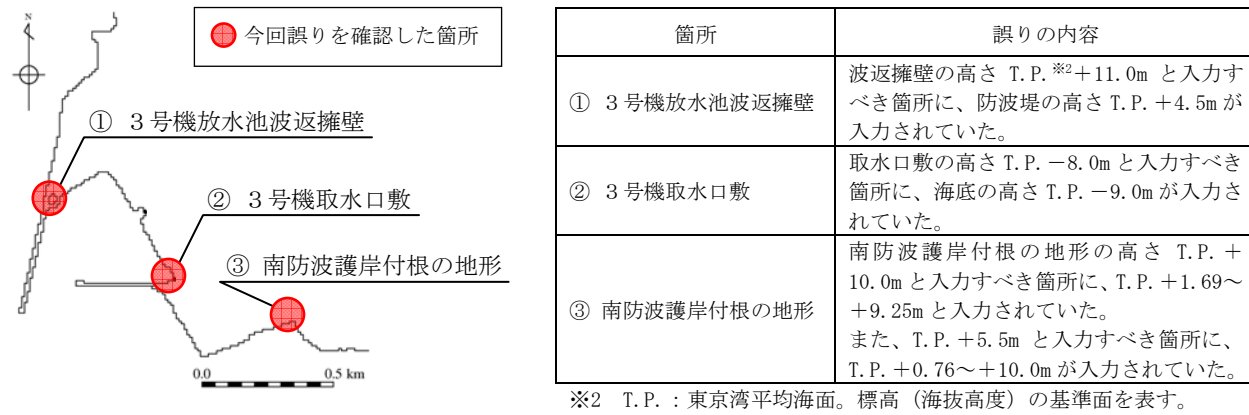


図-1 解析モデル (泊発電所全体)

2. 耐震安全性評価への影響

正しい標高データを設定した解析モデルを用いて、耐震安全性評価結果報告書に記載した敷地前面における最高水位ケース、1・2号機及び3号機原子炉補機冷却海水ポンプ位置における最低水位ケースの計3ケースについて、想定津波の再計算等を行った結果、最高水位及び最低水位に変更がないことを確認した。(表-1参照)

また、耐震安全性評価結果報告書の津波評価及び今回実施した3ケースの想定津波の再計算については、今回の誤りの他に入力データに誤りはないことを確認した。

なお、現在、その他の全ケース (想定される津波波源の走向、傾斜角等を変えた約250ケース) についても想定津波の再計算を実施し、結果の確認を行っているところである。

表-1 津波評価の再計算結果

項目	誤った解析モデルによる計算結果		正しい解析モデルによる再計算結果	
	泊1・2号機	泊3号機	泊1・2号機	泊3号機
津波による最高水位	T.P. +9.8m	T.P. +9.8m	変更なし	変更なし
津波による最低水位 (原子炉補機冷却海水ポンプ位置)	T.P. -6.13m	T.P. -5.95m	変更なし	変更なし

＜地震動評価＞

1. 誤りの内容

耐震安全性評価における地震動評価では、断層モデルを用いた手法による地震動評価 (震源の面的な拡がりによる影響を考慮できる比較的新しい手法) を実施している。

今回の誤りは、「F_B-2断層による地震」の断層モデルを用いた手法による地震動評価における入力データの一部が正しく入力されていなかったものであり、具体的には、震源モデルの断層面の傾斜方向 (断層面が傾斜している方向の方位) の入力において2箇所、発電所位置の座標の入力において1箇所の誤りがあった。(図-2参照)

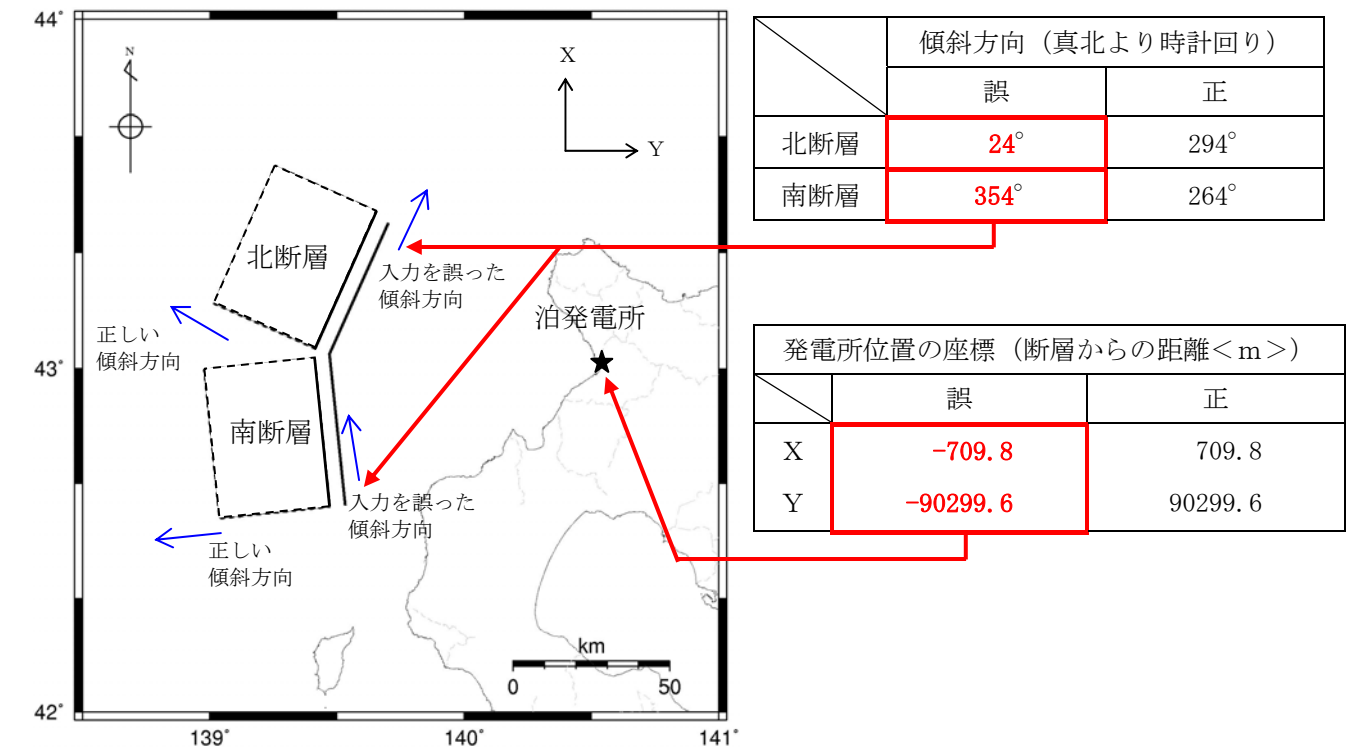


図-2 「F_B-2断層による地震」の震源モデル図

2. 耐震安全性評価への影響

正しいデータを入力し、再計算を実施した結果、基準地震動 S_s に変更がないことを確認した。(図-3参照)

なお、基準地震動 S_s の策定において考慮した、このほかの断層モデルを用いた手法による地震動評価における入力データについては、誤りがないことを確認した。

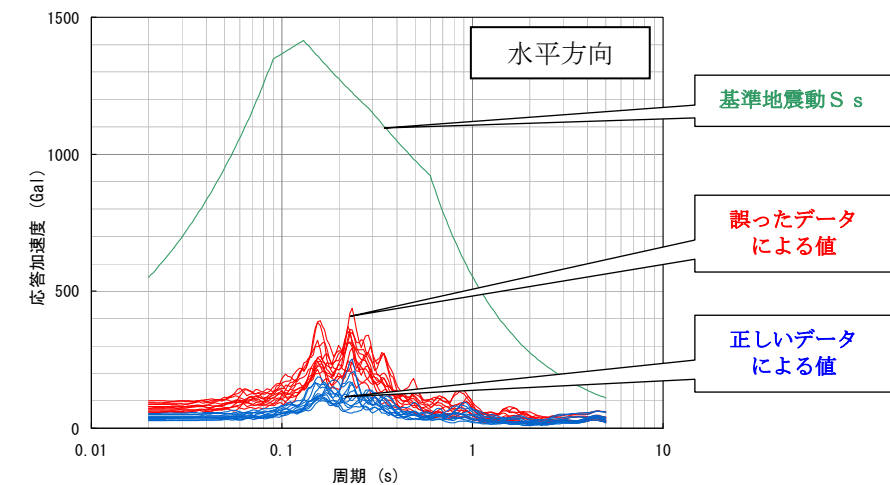


図-3 基準地震動 S_s 及び「F_B-2断層による地震」の応答スペクトル図